

## 課題の 7 秋植えタマネギの越冬率調査（新規）

タマネギは国内において7月から8月下旬の期間に収穫できる産地が少ない。本県は、秋まき栽培、春まき栽培ともに7月から8月下旬の収穫が可能であり、端境期の出荷を狙える。

近年、市内においても、転作田を活用した高収益作物として、タマネギ栽培の取組が拡大しつつあるが、秋植えタマネギの越冬率の向上が課題となっていることから、中晩生種、晩生種における越冬率を調査する。



### 1 調査内容

- (1) 栽培環境 露地ほ場
- (2) 供試品種 中晩生種：ネオアース（タキイ種苗）  
晩生種：ケルたま（タキイ種苗）

#### (3) 調査方法

品種ごとに雪解け後の越冬率のほか、収量調査を実施

#### (4) 耕種概要

- ①播種日：8月15日 200穴セルトレー
- ②定植日：10月10日：
- ③栽植様式：畝幅175cm（床幅75cm） 株間15cm 条間15cm 5条植え  
栽植株数 19,047株/10a

#### ④施肥量

区分	肥料名（N-P-K%）	施肥量（成分量 kg/10a）		
		窒素 N	リン酸 P	加里 K
基肥	燐硝安加里 1号 S552（15-15-12）	11.7	11.7	9.3
追肥	有機アグレット 666（6-6-6）	3.3	3.3	3.3
計		15.0	15.0	12.6

※酸度矯正のため、粒状苦土石灰 M-10 を 133.3kg/10a 散布した。

- ⑤追肥日：4月4日 株元に施肥
- ⑥収穫日：6月20日（ネオアース） 7月2、4日（ケルたま）

### 2 調査結果

#### (1) 生育状況

5月下旬からべと病が見られたが、定期的な薬剤散布により収量や品質に影響を与えるものではなかった。（薬剤散布状況は、表1参照）

表 1 薬剤散布状況

散布月	殺菌剤（成分）	殺虫剤（成分）	対象病害虫
4月	2回（ストロプトマイシン、マゼップ）		軟腐病
5月	2回（マゼップ、ファエキサドン）	1回（テフルトリリ、ダ イゾ ノ）	べと病、アザミヤ
6月	2回（アゾキストロビン、ジメトイル）		べと病

(2) 調査結果

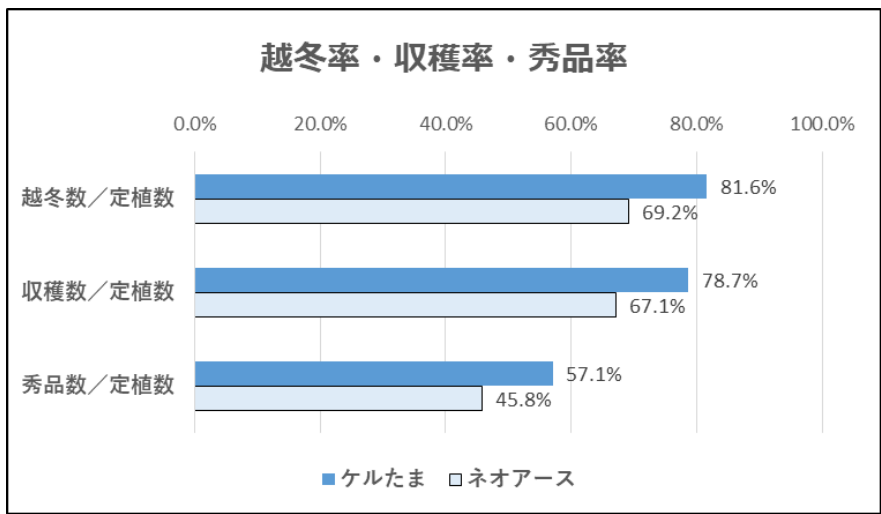
越冬数、収穫数、秀品数を表 2、越冬率、収穫率、秀品率を図 1 に示した。

越冬率は、ケルたまが 81.6%、ネオアースが 69.2%となった。収穫数、秀品数の割合についても、ケルたまの方が高くなった。

表 2 越冬数、収穫数、秀品数

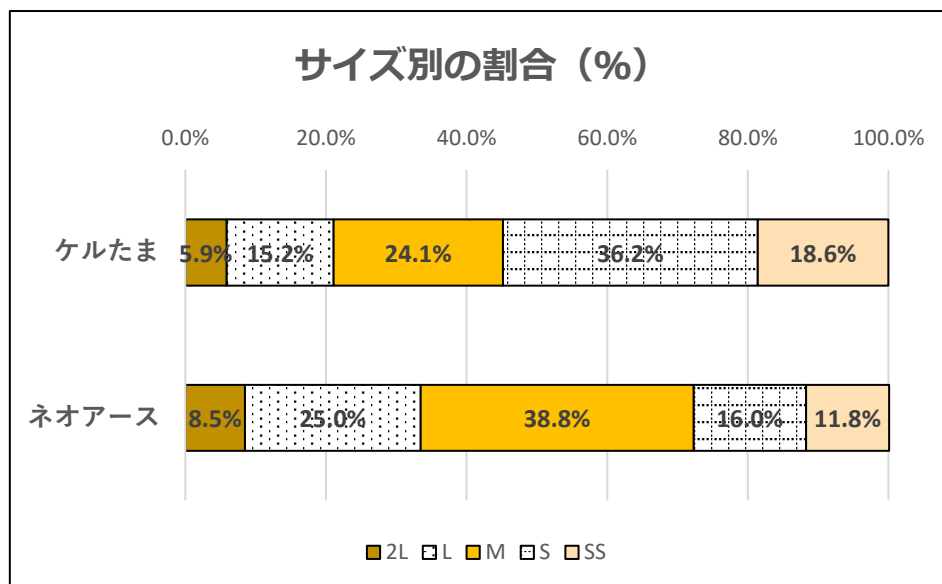
品種名	定植数 (個)	越冬数 (個)	越冬率 (%)	収穫数 (個)	収穫率 (%)	秀品数 (個)	秀品率 (%)
ケルたま	2,030	1,656	81.6	1,598	78.7	1,160	57.1
ネオアース	2,105	1,456	69.2	1,413	67.1	965	45.8

図 1 越冬率・収穫率・秀品率



サイズ別の割合を図 2、10a 当たりの収量を試算した結果を表 3 に示した。  
M サイズ以上の割合はネオアースの方が高く、1 個当たりの調整重もネオアースが重かった。収量及び秀品の割合はケルたまがネオアースよりも高かった。

図 2 サイズ別の割合



〈参考 タマネギ出荷基準〉

区分	2L	L	M	S
直径	9cm 以上	7.5cm 以上	6.5cm 以上	5.5cm 以上

表 3 10a 当たり換算収量

品種	栽植株数 (株/10a)	秀品割合 (%)	秀品個数 (個/10a)	調整重 (g/個)	収量 (kg/10a)
ケルたま	19,047	57.1	10,876	198.7	2,161
ネオアース	19,047	45.8	8,723	205.5	1,793

### 3 まとめ

今回は、中晩生種のネオアースより、晩生種のケルたまの越冬率が高い結果となったが、両品種とも播種日を同日としていた。それぞれの品種で播種適期が異なることから、次年度は播種時期をずらし、調査を実施する。